２．学習指導要領 2020 と「起業教育」「キャリア教育」

大阪商業大学　副学長・リエゾンセンター長　南方建明

１　学習指導要領 2020

（１）高等学校では 2022 年度から順次実施

中央教育審議会において、新しい「学習指導要領」の検討がすすんでいる。2016 年度中にも最終答申が出される予定であり、小学校では 2020 年度から、中学校では 2021 年度から全面実施、高等学校では 2022 年度から年次進行により順次実施されることになっている。新しい学習指導要領の方向性を示す「審議のまとめ」（同審議会教育課程企画特別部会資料、2016 年 8 月）によると、その改訂の視点として、「何を学ぶか」に加えて、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」が強調されている。

（２）どのように学ぶか

「どのように学ぶか」については、「主体的・対話的で深い学び」、すなわち「アクティブ･ラーニング」の実現がうたわれている。そこでは、「学習内容を人生や社会のあり方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けること」、そのためには「主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会のあり方を結びつけたり、多様な人との対話で考えを広げたり、各教科等で身につけた資質・能力を様々な課題の解決に生かすよう学びを深めること」が重要であると指摘している。そして、「アクティブ･ラーニング」とは、「形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を目指した技術の改善にとどまるものではなく、それぞれの興味や関心をもとに、一人ひとりの個性に応じた多様で質の高い学びを引き出すことを意図するものである」としている。

（３）何ができるようになるか

「何ができるようになるか」、すなわち「新しい時代に必要となる資質・能力」として、次の３つの柱が掲げられている。①個別の知識･技能（何を知っているか、何ができるか）、②思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）、③人間性や学びに向かう力等（どのように社会・世界とかかわり、よりよい人生を送るか）。

２　「起業教育」で育成する能力

大阪商業大学では、起業教育を次のように位置づけている。起業教育は、必ずしも将来の起業家を育成するという狭義の意味ではなく、起業家精神と起業家的な資質・能力をもった人材、ビジネス社会において新規事業開発、新しい商品やサービス、新しいビジネスモデルの創造と継続的革新を担う人材を養成することを目標にしている。そして、「起業家精神」とは、自立性、チャレンジ精神、創造性、積極性、探究心、「起業家的資質・能力」とは、自己責任で決断する能力、リーダーシップを発揮する能力、情報の収集・分析能力とそれに基づく判断力、問題解決能力、行動力である（大阪商業大学起業教育研究会編『高校生のための起業教育ワークブック』2005 年 3 月）。

３　「キャリア教育」で育成する能力

キャリア教育は、「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されている。そして、キャリア教育において育成する能力を『基礎的・汎用的能力』とよび、①人間関係形成・社会形成能力（自分の役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力）、②自己理解・自己管理能力（社会との相互関係を保ちつつ、主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力）、③課題対応能力（仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を解決できる力）、④キャリアプランニング能力の４つからなるとしている（中央教育審議会答申『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』2011 年 1 月）。

４　「起業教育」「キャリア教育」「学習指導要領 2020」

「起業教育」で育成する能力、「キャリア教育」で育成する能力、「学習指導要領 2020」で育成が求められている能力、いささか様々なものが入り乱れていると言わざるを得ない。しかし、「起業教育」は、起業家精神と起業家的な資質・能力を育成するものであり、「キャリア教育」は、そのような意欲・態度と資質・能力をベースとして、将来の職業を考え、進路を選択するものである。「起業教育」はまた、「学習指導要領 2020」が求める学びに向かう力や思考力・判断力などを育てるものである。「起業教育」を通して、また「アクティブ・ラーニング」（学習指導要領 2020）を通して、それまであまり意識していなかった自分自身の強み・弱みに気づき、その強みを伸ばす方向で将来を設計していくことは、まさに「キャリア教育」の目指すところである。

今日、求められている教育は、「単に知識を詰め込むのではなく、それを応用して主体的に考えること」「今学んでいることが人生のあり方や社会における様々な問題解決にいかに貢献するのかを意識させ、能動的な学びを引き出すこと」といえる。